

2006年度別科活動報告書

清水 厚子

1. はじめに

2006年度別科日本語研修課程は、12名の学生を受け入れ、2006年4月5日から2007年1月27日まで合計35週にわたって授業が行われた。授業は月曜日から土曜日までの週6日制で、90分授業を1コマとして、週当り日本語16コマ、日本事情1コマ、英語2コマ行った。また課外活動として、親睦会、茶道体験学習、交流会などを実施し、留学生研修旅行にも参加した。

以下に2006年度の別科活動の概要を報告する。

2. 学生とクラス編成

学生総数：12名（定員30名）

男性：9名 女性：3名

国別： { 中国：7名（男5 女2）
 { モンゴル：2名（男1 女1）
 { トンガ：2名（男2）
 { バングラディッシュ：1名（男）

クラス編成

4月の授業開始前に日本語、英語クラス分け試験を行い、日本語は3クラス（I・II・III）、英語は2クラス（A・B）にそれぞれ学生を振り分けた。

日本語クラスに関しては、I、IIクラスは初級前半、IIIクラスは初級後半とした。

クラス別： { Iクラス：4
 { (中国1 トンガ2 バングラディッシュ1)
 { IIクラス：4
 { (中国3 モンゴル1)
 { IIIクラス：4
 { (中国3 モンゴル1)

3. 一年間の授業

<時間割>

2006年度 別科時間割

	I 9:20～10:50	II 11:10～12:40	III 13:30～15:00	IV 15:20～16:50
月	日本語演習 1	日本語演習 2	日本語演習 13	
火	日本語演習 3	日本語演習 4	日本語演習 14	日本語演習 15
水	日本語演習 5	英 語	日本語演習 6	
木	日本語演習 7	日本語演習 8	英 語	日本事情
金	日本語演習 9	日本語演習 10	日本語演習 16	
土	日本語演習 11	日本語演習 12		

①各クラスの授業について

別科は3つのクラスに分かれてそれぞれ授業を進めているが、各クラスの授業は3名の嘱託講師がそれぞれ担当したクラスの授業の運営に当たっている。授業方法は午前(日本語演習1～12)は共通教材のリレー授業、午後(日本語演習13～16)はポイント授業という形で行われた。

下記に各クラスで使用した教材及び到達度について報告する。

Iクラス

<共通(リレー)教材>

みんなの日本語初級 I II
初級で読めるトピック 25 I II

非漢字圏学生3名に中国人1名であり、全くのゼロスタートであったので、午前も午後も初級終了の力をつけさせるために当てた。

IIクラス

<共通(リレー)教材>

みんなの日本語初級 I II
みんなの日本語聴解タスク I II
初級で読めるトピック 25 I II
中級へ行こう
ニューアプローチ中級日本語
毎日の聞きとりプラス 40 (上下)

<リレー以外の教材>

日本語中級からのスキルバランス

わかって使える日本語

生教材（新聞、雑誌等）

中国人3名、モンゴル人1名であったが中国人1名は前期で退学したので3名のクラスとなった。母国で少しは日本語の学習経験はあったが、足並みを揃える意味で初歩から教え直した。3人で競い合い、順調に力をつけていって、中級レベルに到達した。3名中2名が日本語能力試験2級に合格した。

Ⅲクラス

<共通（リレー）教材>

みんなの日本語初級Ⅱ

初級で読めるトピック 25 I（後半）Ⅱ

初級毎日の聞きとり 50日（上下）

中級へ行こう

日本語集中トレーニング

ニューアプローチ中級日本語

毎日のききとりプラス 40（上下）

<リレー以外の教材>

楽しくきこうⅠⅡ

聴解タスクⅠⅡ

速読の日本語

カタカナ 350 聴解

中国人3名、モンゴル人1名で、一応初級終了者であった。しかし4人4様で聴解が苦手な学生、発話が苦手な学生、またその逆の学生という極端な学生の組み合わせのクラスになり、クラス運営に技量を要した。授業では特に初級の聴解から力を入れた。その甲斐があって、別科修了時には何とかバランスよく中級の力をつけるところまで到達した。4名中2名が日本語能力試験2級に合格した。

②前期集中授業について

別科の学年暦は大学の学年暦に沿って一年間の予定がたてられているため、学習期間がかなり短い。（実質的には8ヶ月）その短い学習期間を少しでも補うと同時に、前期で学習したことを整理し、後期からの学習につなげるために、夏休みに入る直前の7月後半（7月21日～26日までの4日間）嘱託講師による授業を行った。

③コンピュータ演習

11月の後半から毎週火曜日の4限目「日本語演習15」の時間をコンピュータ演習の時間とした。ここでは学内のパソコンの使い方に慣れると同時に、日本語入力（ローマ字入力）の練習を行った。それまで授業や、それ以外で書いてきた日本語の作文をパソコンのワープロソフトを使って入力した。この時間は別科担当教師のほかに、学園情報センターの職員の方にサポートに来ていただいた。学生達はパソコンの操作や入力方法を職員の方に聞いたりして、いつもの授業と異なる日本語による実際のコミュニケーションの場となった。

④作文集作成

上述のコンピュータ演習の時間に打った各学生の作文は、一つの冊子としてまとめ「別科作文集2006」として発行した。これは学生本人や保証人、別科生が推薦されて進む学部学科をはじめとする学内の各部署に配布され、一年間の別科の成果を示す機会ともなっている。

4. 試験について

別科として行った主な試験は、週間試験、期末試験、統一試験の三つである。

①週間試験

各クラス別に、原則として毎週授業の一環として各クラス担任の嘱託講師が中心となって行った。試験の具体的な目的や意図、内容や形式、フィードバック等については各クラスにより異なり、それぞれの担当教員が、一人一人の学生の学習状況を知り、その後の授業を行っていくための一つの参考資料として利用された。

②期末試験

前後期末（7月と1月）に各クラスがそれ迄に学習した内容について試験が行われた。各担任の嘱託講師が具体的な目的や内容等を決定して実施し、その結果は各学生の成績の参考資料として利用された。

③統一試験

クラスや日本語のレベルに関係なく全員共通の問題で年3回（7月・10月・1月）実施した。主な目的は、それぞれの学生の学生全体の中における相対的な日本語力を知ること、初級終了レベルの文法、日本語能力試験2～3級レベルを中心とした読解と聴解の内容で行った。

7月及び10月の試験結果は学部推薦の際の参考資料として利用し、1月の結果は各学生の一年間の日本語力の伸び具合を知る一つの資料として利用した。

5. 課外活動について

①親睦会（5月）

別科を修了し、学部に進学した先輩学生を招いて昼食会を行った。来日して間もない別科生にとって母国語で日本での生活、別科での勉強のこと、また学部での大学生活などを先輩と話し合える場となっており、またさまざまな情報を得る場となっている。

②茶道体験学習（6月）

学内の茶室に於いて、日本語学科関口伊都子准教授のコーディネートによる別科学生のための茶道体験学習は別科生にとって日本の文化に触れる機会となり、貴重な経験となっている。

③留学生研修旅行（10月）

この旅行は、本学国際交流センターが外国人留学生のために毎年秋に二泊三日で行う研修旅行で、希望者が参加している。別科では課外授業の一環として全員参加としている。今年度は「伊勢、志摩を訪ねて」という旅で、異文化体験の数々が学生の作文集に書かれている。また学部留学生と知り合ったことも、情報交換するいいチャン

スとなったようだった。

④交流会（作文発表会と昼食会）（12月）

学生全員がこれまで書いてきた作文の中から一つを選び他の学生の前で発表した。その後ビュッフェ形式の昼食会には別科の修了生も参加した。別科生は既に学部進学が決まっており、先輩から学部での勉強や生活についてアドバイスを受れたり、情報を得たりしていた。

6. 修了後の進路—学部推薦について—

別科において成績優秀と認められる者については、別科よりその学生の希望する本学学部への推薦入学制度がある。現在別科に入学する学生のほとんどは、この推薦制度を利用して学部入学を希望している。

2006年度の入学者12名の進路は8名が本学学部への推薦入学、2名が各種専門学校、1名が前期で退学、その他1名となっている。

本年度の学部推薦制度による別科学生の各学部学科への入学は次の通り。

経営学部経営学科	2名
企業システム学科	2名
経済学部社会経済学科	1名
環境創造学部環境創造学科	1名
スポーツ健康学部スポーツ学科	2名

7. 「別科通信」の発行

別科では学生の別科における修学が円滑に進むように各学生の保証人に対し「別科通信」を発行し、各保証人との連携を図っている。別科側から保証人には、学生の出席、学習に関する状況を伝え、保証人側からは保証人の把握する学生の近況及び別科への意見、要望を寄せていただいている。

2006年度は、4月、7月、10月、12月、2月の計5回「別科通信」を発行した。

8. おわりに

2000年度から続けてきた別科3クラス体制も結果的には今年度が最後の年となってしまった。ここ数年学生数が減少している中、12,3名ではあっても3クラスに分け、嘱託講師と非常勤講師がチームを組み、各クラスがそれぞれに工夫して、学生のために効率よく、早く日本語が上達するようにとの共通の目的を持ち励んできた日々であった。改めて2006年度の活動報告を書きながら、3クラス体制での日々を思い起こしている次第である。